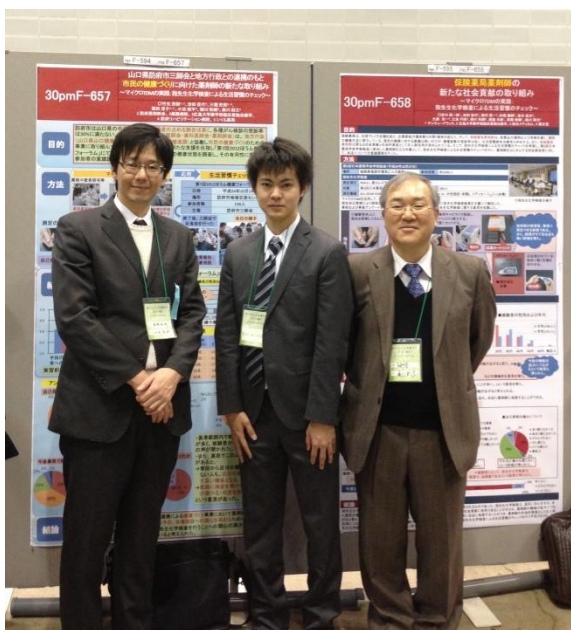


山口県防府市三師会と地方行政との連携のもと市民の健康づくりに向けた薬剤師の新たな取り組み～マイクロ TDM の実践：指先生化学検査による生活習慣のチェック～  
<sup>1, 3</sup>竹光 茂樹 (たけみつしげき)、<sup>2</sup>池田 佳代 (いけだ かよ)、<sup>1, 4</sup>三堀 史郎 (みほり しろう)、

<sup>1, 5</sup>福田 淳子 (ふくだあつこ)、<sup>2</sup>小池 純平、<sup>2</sup>猪川 和朗 (いかわ かずろう)、<sup>2</sup>森川 則文 (もりかわ のりふみ)

<sup>1</sup> 防府薬剤師会 Hofu Pharmacist Association、<sup>2</sup> 広島大学薬学部臨床薬物治療学 Department of Clinical Pharmacotherapy, Hiroshima University、<sup>3</sup> 桑陽病院 Soyo Hospital、<sup>4</sup> 防府リハビリテーション病院 Hofu Rehabilitation Hospital、<sup>5</sup> いくも薬局 Ikumo Pharmacy

【目的】防府市(人口 11 万人)は山口県の中央に位置し、高齢者の占める割合は高く、各種がん検診の受診率はいずれも 30%に満たない。薬剤師は、医薬品の供給と適正使用の推進を通じ地域医療の一翼を担ってきたが、セルフメディケーションへの対応など、市民の健康づくりへの貢献が期待されている。平成 24 年 10 月 14 日に防府市地域交流センター：アスピラートにて、三師会(医師会・歯科医師会・薬剤師会)と地方行政(山口県山口健康福祉センター・防府市健康増進課)による「市民公開講座：第 7 回 2012 ほうふ健康フォーラム」を開催し、防府薬剤師会と広島大学薬学部臨床薬物治療学研究室が共同で、来場者を対象に指先生化学検査を行い市民の健康状態を調査し、その有用性に関して参加者の意識調査を行った。【方法】希望者の指先自己穿刺により採取された血液を用い、生活習慣のチェックとして HbA1c、総コレステロール、中性脂肪、尿酸を測定した。血液採取後 10 分以内に被験者に各測定結果を文書にて報告した。被験者に事前および事後アンケートをとり、指先生化学検査に関する意見を収集した。【結果】延来場者数は約 500 人、被験者数は 155 人に達した。



各項目の参加者と基準値を超えた人数は、HbA1c で 131 人中 16 人(12.2%)、総コレステロールで 130 人中 41 人(31.5%)、中性脂肪で 99 人中 27 人(27.3%)、尿酸で 91 人中 16 人(男性(25 人中 6 人(24.0%))、女性(66 人中 10 人(15.2%))であった。被験者の 90.0%が指先穿刺の手技の容易さを認めた。医療従事者や行政関係者からは、薬剤師の新たな職能拡大につながるとの意見が多数得られた。【結論】市民公開講座にて試みた薬剤師による指先生化学検査は、市民の健康づくりに大いに有用であることが示された。